

FY2026 1Q

2027年3月期 第1四半期決算説明資料

2026年8月10日

品質向上のトータルサポート企業

バルテス・ホールディングス株式会社
(証券コード：4442)₁

CONTENTS

1.	エグゼクティブサマリ	P.3
2.	第1四半期決算概況	P.9
3.	業績見通し	P.23
4.	生成AIテストツール開発投資	P.25
5.	成長戦略（新中期経営計画）	P.29
6.	ソフトウェアテスト事業環境	P.33
7.	自社の強み	P.37
8.	会社概要	P.44

※ FY2024 3Q以降及びFY2025 1Qの数値は、企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更しているため、FY2025 1Qまでに開示した数値と異なります。

1

エグゼクティブサマリ

エグゼクティブサマリ（前年同期比）

	実績	前年同期比	
売上高	 30.0 億円	+9.4% 	前年同期比 +9.4% の 過去最高売上
営業利益	▲0.0 億円	-	AI投資等で販管費増加も計画通り、営業利益は 計画値※ を上回る
親会社株主に 帰属する四半期純利益	▲1.0 億円	-	投資先減損の影響で四半期純利益は減少も、当期着地への影響は 軽微
単価 (ソフトウェアテスト)	838 千円	+11千円 	前年同期比で +11千円増加
案件数	 1,792 件	+117件 	総案件数は順調に 増加 (内、ツール案件数は前年同期比+70件)
稼働エンジニア数 (2026年6月末時点)	 1,385 名	正社員 +31名  正社員,契約社員,BP 合計 +145名 	売上拡大 に伴い、正社員・ビジネスパートナー共に 増員

① 滋賀大学と調査・研究センター設置を前提としたデータサイエンス・AI分野における連携協定を締結

※詳細はP19・P25をご確認ください

7月8日滋賀大学との連携協定締結
(8月下旬研究センター設置予定)

AI時代へ積極的に対応

連携協定 4つのテーマ

- ① 生成AIによるテスト設計・確認ポイントの**高度化** AI4QA
- ② AIエージェントを組み込んだ開発・テスト業務の**効率化** 業務変革
- ③ 用途や顧客ごとに最適化できる**生成AI活用環境の整備** AI4QA
(ローカルLLMを含む)
- ④ AI搭載のシステムを評価する**品質基準の策定** QA4AI
戦略的に最も重要なテーマ

事業化に向けた取り組み (研究から収益化へ)

AI4QA 業務効率化・品質活動の高度化

- ① 確認ポイント抽出の精度を実用レベルまで向上
- ③ ローカルLLMを含む生成AI活用環境の整備により開発・テスト業務を高度化

見逃しを防ぎつつ、不要な指摘を削減

QA4AI AI搭載システムの品質評価・担保を事業化

- ④ 評価指標・品質基準・テスト手法を標準化
AIの安全な実装を支える品質評価サービスを提供

今後重要性がさらに高まる重点領域

目指す姿

AIを使ったシステム開発とその運用を品質から一貫して支援する

AI時代に即した品質向上のトータルサポート企業へ

人が提供する価値

✓ 顧客を伴走支援する品質コンサルティング

事業の重要な柱

AI4QA

AIを活用したテスト設計・品質活動の高度化

QA4AI

AI搭載システムの品質評価サービス

将来の中核成長領域

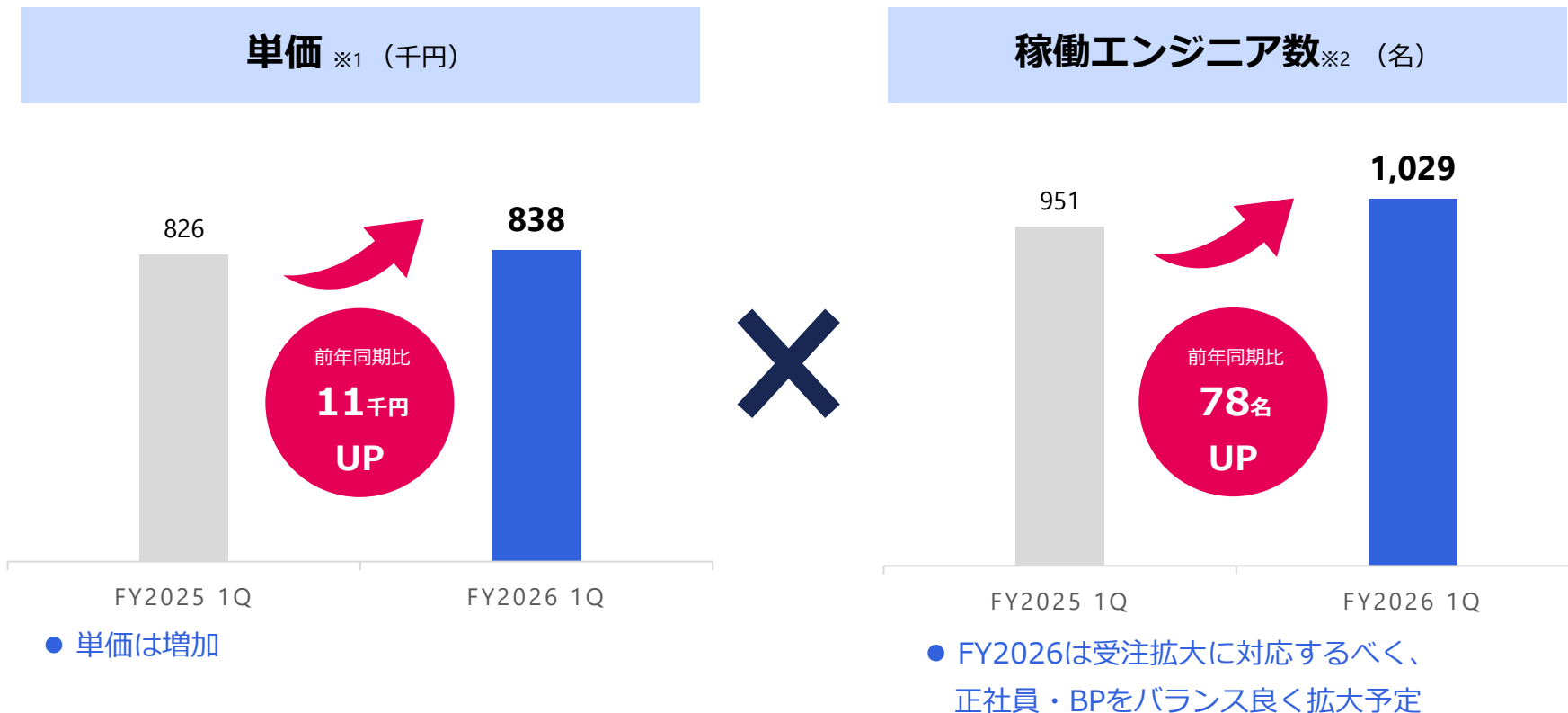
② 生成AIテストツール開発の進捗

- ・ドキュメント品質解析AIツール「**QuintSpect**」**正式版**を2026年7月6日より**提供開始**※詳細はP21をご確認ください
- ・生成AIテストツール類の研究開発費は1Q総額62百万円（前年同期比40百万円増）と**計画通り順調に増加**※詳細はP13をご確認ください

※ **AI4QA** ソフトウェアテストや品質保証業務にAIを活用する取り組み。テスト設計、自動実行、結果分析を効率化し、品質向上と生産性向上を支援する。

※ **QA4AI** AIシステムの品質を保証する活動。AIモデルの精度、公平性、安全性、説明可能性などを検証・評価し、信頼性の高いAI提供を実現する。

単価、稼働エンジニア数ともに増加

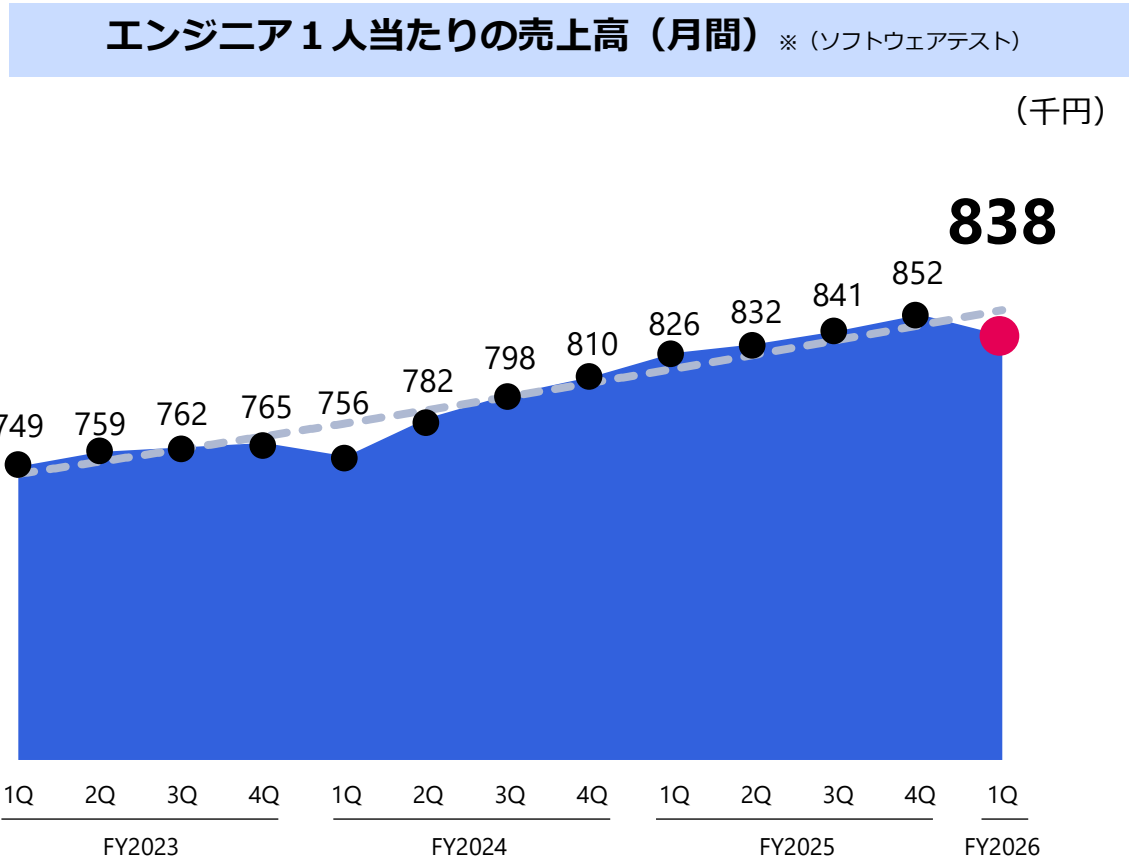


※1 単価（月間）＝ 国内ソフトウェアテスト事業（ソフトウェアセグメントから国外事業・ツール事業・教育関連事業を除く）の売上高 ÷ 同事業に従事するエンジニア数の延べ人数（正社員＋契約社員＋ビジネスパートナー）

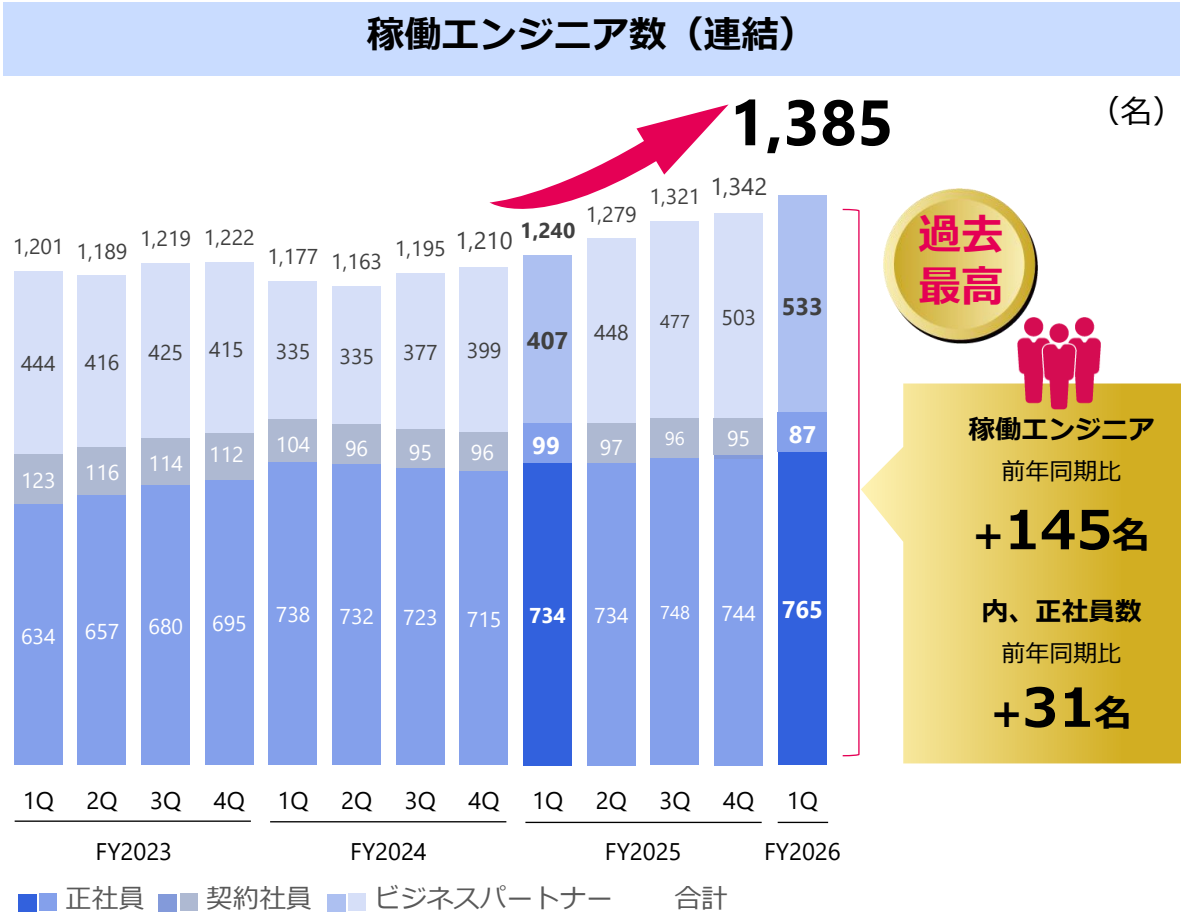
※2 本項記載の数値に関しては、国内ソフトウェアテスト事業のみの集計となるため、本資料のエグゼクティブサマリー記載の「稼働エンジニア数」の数値とは異なります。

単価の推移（ソフトウェアテスト）、稼働エンジニア数の推移（連結）

単価**838千円**、エンジニア数**1,385名**、更なる成長へ向け稼働エンジニア数を順調に**拡大**



※ エンジニア1人当たりの売上高（月間）＝
国内ソフトウェアテスト事業（ソフトウェアセグメントから国外事業・ツール事業・教育関連事業を除く）
の売上高 ÷ 同事業に従事するエンジニア数の延べ人数（正社員+契約社員+ビジネスパートナー）





滋賀大学とバルテス・ホールディングス株式会社が 連携協定を締結 ーデータサイエンス・AI分野で連携強化ー

- ・データサイエンス・AIによる課題解決と人材育成を目的として、同分野を牽引する滋賀大学と
2026年7月8日に連携協定を締結



バルテス・ソリューションズ&AI株式会社が始動 ～開発・品質保証・AI活用を強みに、お客様の事業成長を支える新体制へ～

- ・**2026年7月1日**、開発・品質保証・運用・保守を一貫して支援する新体制として、
バルテス・ソリューションズ&AI が始動



バルテス、ドキュメント品質解析 AI ツール「QuintSpect」の正式版を提供開始 ～分析予約機能や管理機能を実装し、利用しやすさと安定性を向上～

- ・機能強化を経て、正式版を**2026年7月6日より提供開始**



T-DASH、「ITreview The Best Software in Japan 2026」の「The Best Software by Category」において、開発カテゴリー「テスト自動化ツール」部門を受賞

- ・バルテスが提供する本サービス、ITreviewのユーザーレビューに基づく評価により選出。
206カテゴリーを対象とした選考で**高い評価を獲得し受賞**。

2

第 1 四半期決算概況

営業体制整備の成果により案件数は順調に増加、売上高は過去最高
AI投資の影響等で販管費は増加するも計画内、営業利益は計画値※1を上回る
一方投資先減損の影響で四半期純利益は減少も、当期着地への影響は軽微

	FY2025 1Q		FY2026 1Q			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	2,748	100.0	3,008	100.0	+259	+9.4
営業利益	99	3.6	▲7	▲0.2	▲106	-
EBITDA ※2	164	6.0	64	2.1	▲99	▲60.9
経常利益	96	3.5	▲11	▲0.4	▲107	-
親会社株主に 帰属する四半期純利益	53	1.9	▲105	▲3.5	▲158	-
1株当たり四半期純利益 (円)	2.69	-	▲5.31	-	-	-

※1 当第1四半期連結累計期間の営業損失および経常損失は、年初に織り込み済みの生成AI投資強化によるもので、想定範囲内であり、社内計画対比では上振れて着地しております。
投資先減損の影響を考慮しても当期業績に与える影響は軽微であるため、通期予想に変更はありません。

※2 EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費で算出

売上高、営業利益 四半期推移（会計期間）

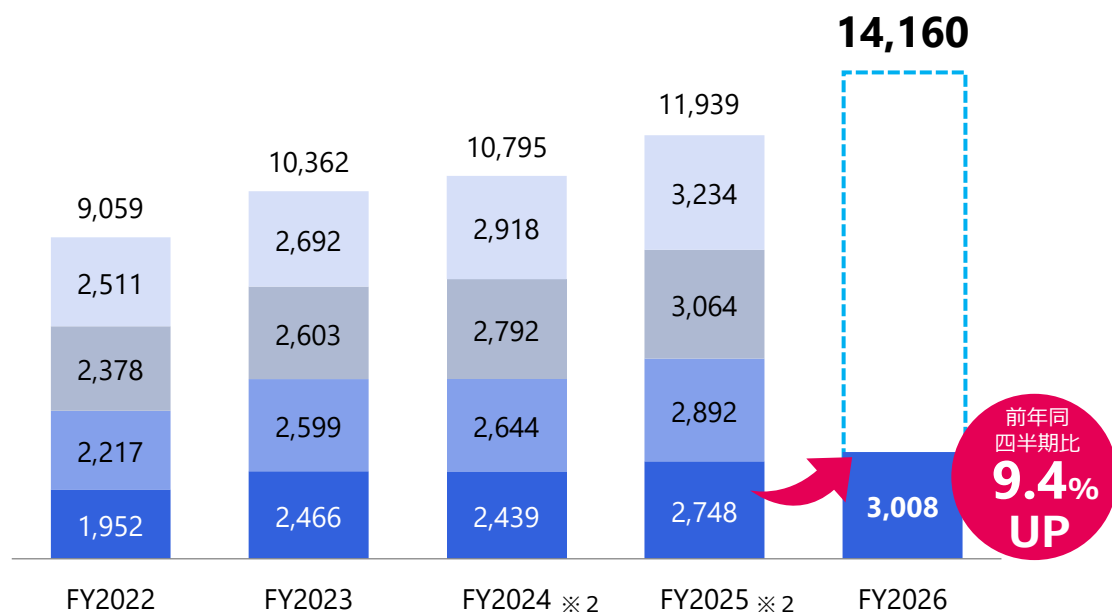
売上高

前期から取組む営業体制整備の成果で案件数は順調に増加、オーガニック成長は計画通りとなり、通期売上高としては過去最高

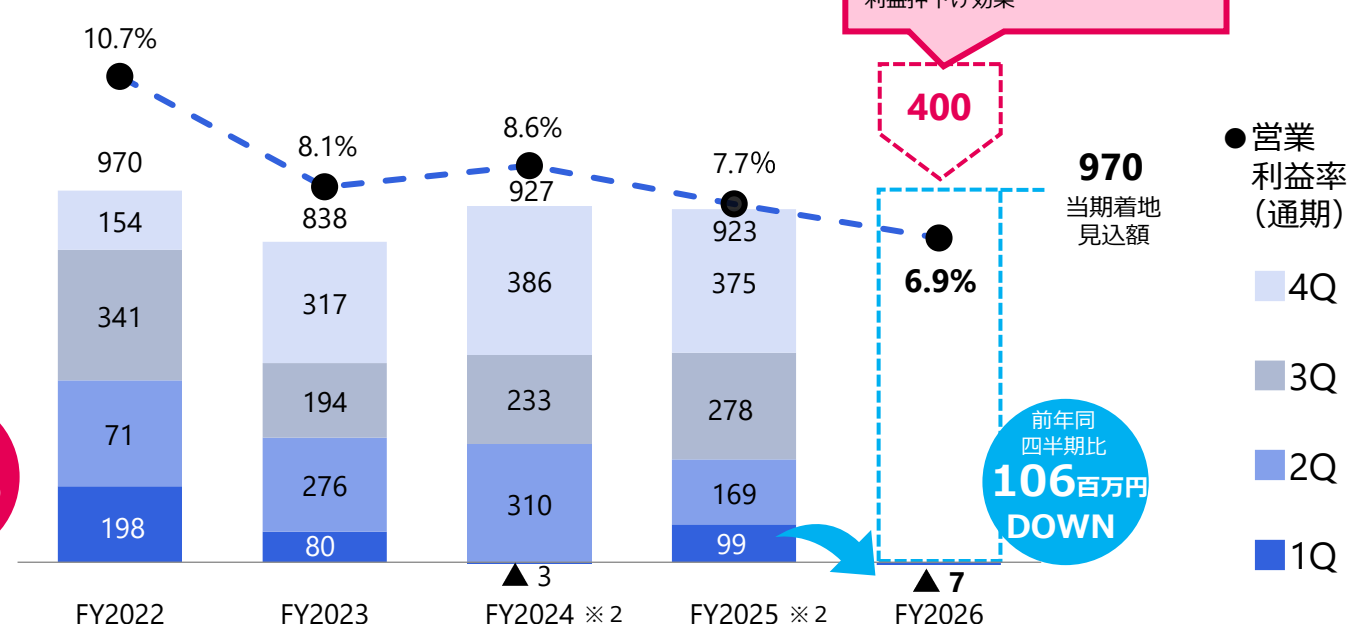
営業利益

採用が順調に進んだことで研修コストが増加し売上総利益率はやや低下するも、2Q以降は改善見込み
積極的なAI投資、マーケティング等の影響で販管費増加するも計画内、営業利益は計画値※1を上回る

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



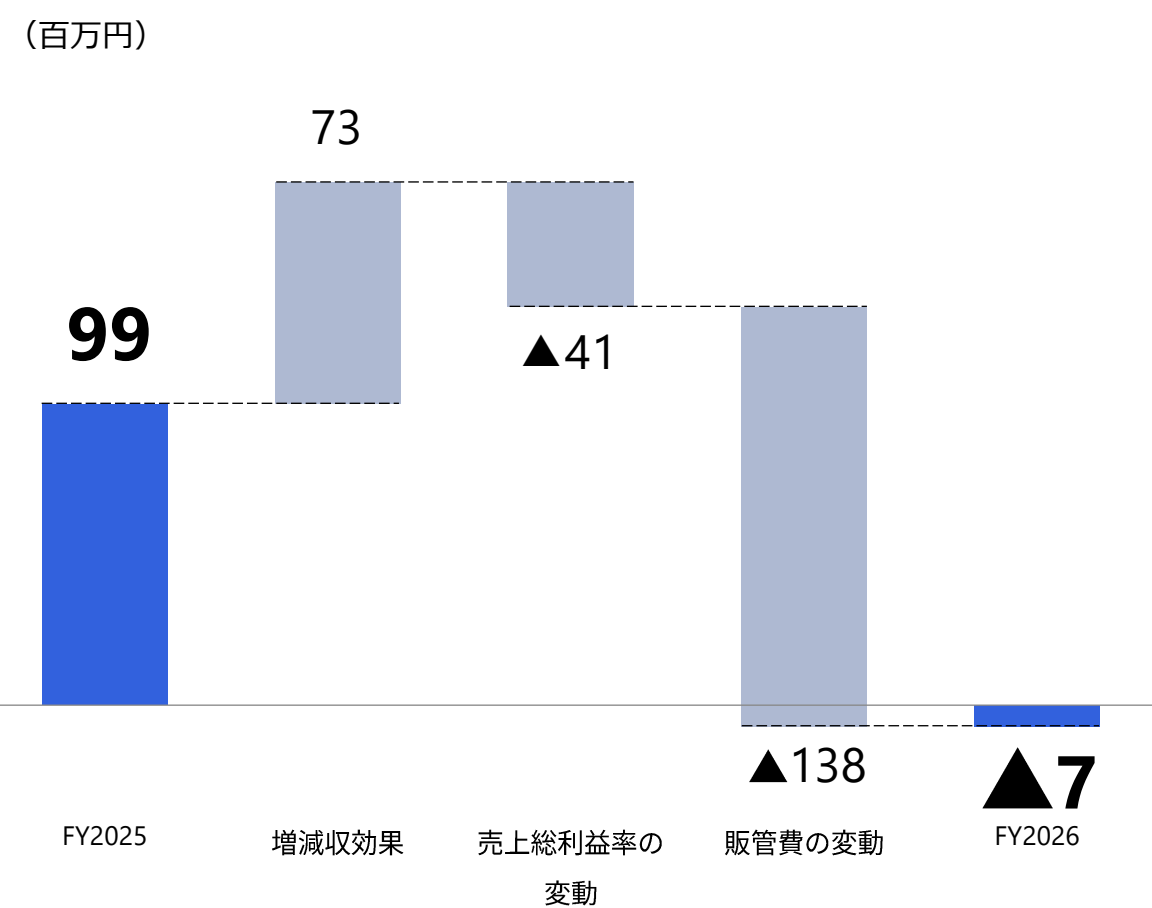
※1 当第1四半期連結累計期間の営業損失および経常損失は、年初に織り込み済みの生成AI投資強化によるもので、想定範囲内であり、社内計画対比では上振れて着地しております。投資先減損の影響を考慮しても当期業績に与える影響は軽微であるため、通期予想に変更はありません。

※2 FY2024 3Q以降及びFY2025 1Qの数値は、企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更しているため、FY2025 1Qまでに開示した数値と異なります。

採用拡大による研修コスト増で売上総利益率が低下

販管費は生成AI開発投資やマーケティング強化等で増加するも計画内、営業利益は減少も計画値を上回った

(百万円)



増減収効果	ソフトウェアテスト 開発 セキュリティ	+72 +4 ▲3
売上総利益率の変動	ソフトウェアテスト事業においては、採用拡大による研修コスト増等の影響で利益率低下。開発事業、セキュリティ事業の利益率は改善	
	ソフトウェアテスト 開発 セキュリティ	▲49 +6 +1
販管費の変動	変動要因のうち最大のものは生成AI開発投資に伴う研究開発費の増加 他、マーケティング強化による広告宣伝費の増加 支払手数料の増加 株主優待制度開始による費用増等の影響 (詳細は次頁に記載)	▲40 ▲13 ▲13 ▲10

中期経営計画に即した生成AIテストツール研究開発費、マーケティング強化による広告宣伝費及び株主優待コスト等が計画通り拡大したため販管費138百万円増

	FY2025 1Q (百万円)	FY2026 1Q		
		(百万円)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
販管費	680	818	+138	+20.3
人件費	259	287	+27	+10.8
採用費	85	101	+16	+18.8
研究開発費	22	62	+40	+179.5
その他	313	367	+54	+17.3

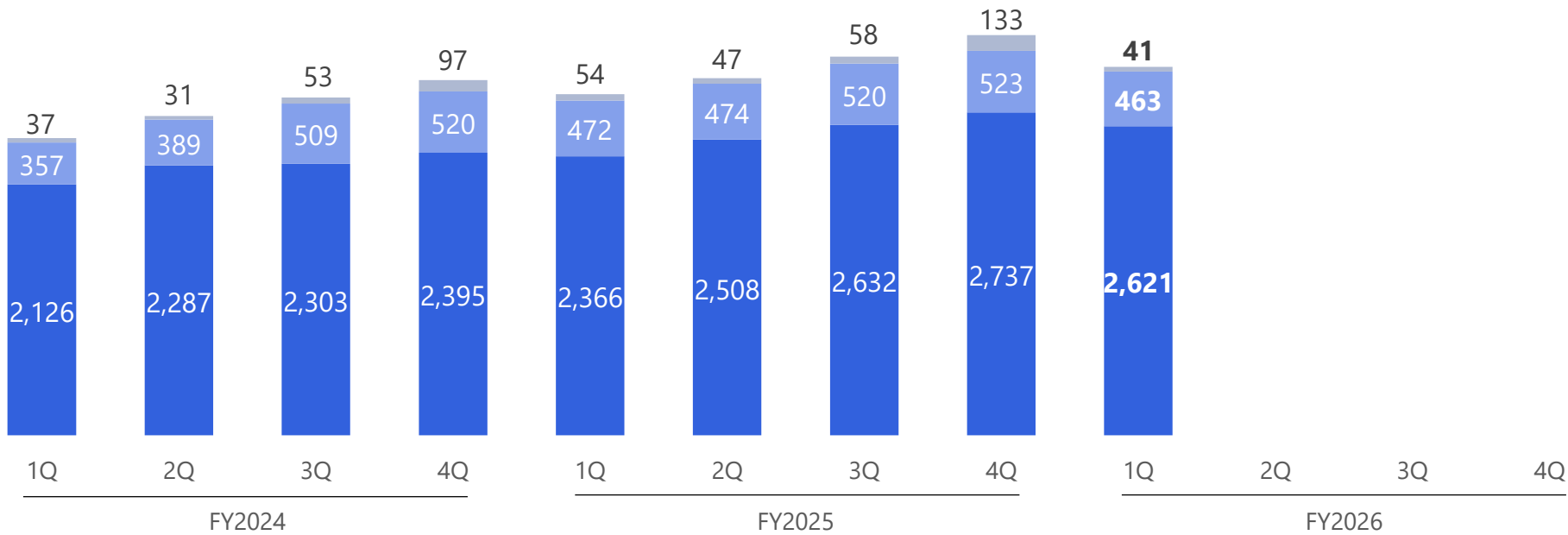
人件費	+27	組織拡大に伴う増加
採用費	+16	組織拡大に伴う増加
研究開発費	+40	積極的な生成AI投資に伴う増加
その他	+54	マーケティング強化による 広告宣伝費13、 支払手数料13、 株主優待コスト10

	FY2025 1 Q		FY2026 1 Q			
	実績 (百万円)	利益率 (%)	実績 (百万円)	利益率 (%)	前年同期比 (%)	(pt)
売上高	2,748		3,008		+9.4	
ソフトウェアテスト	2,366		2,621		+10.8	
開発	472		463		▲1.9	
セキュリティ	54		41		▲25.3	
連結消去	▲144		▲118			
営業利益（利益率）	99	(3.6)	▲7	(▲0.2)	-	(▲3.8)
ソフトウェアテスト	137	(5.8)	52	(2.0)	▲61.6	(▲3.8)
開発	▲9	(▲2.0)	▲33	(▲7.3)	-	(▲5.3)
セキュリティ	▲0	(▲0.5)	▲12	(▲30.6)	-	(▲30.1)
連結消去	▲28		▲13			

ソフトウェアテスト事業が成長を牽引、連結 1 Q売上高は過去最高

(百万円)

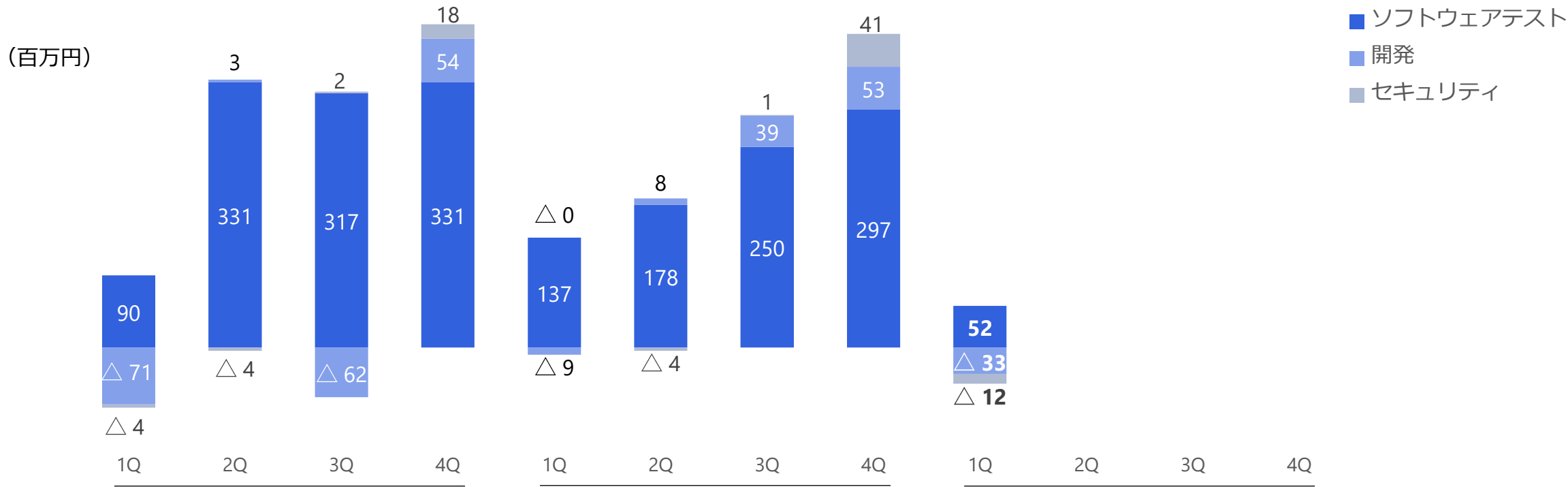
- ソフトウェアテスト
- 開発
- セキュリティ



連結 1 Q 売上高	2,439百万円	2,748百万円	3,008百万円
---------------	----------	----------	----------

※ 株式会社シンフォーをFY2023 1Qより、フェアネスコンサルティング株式会社(現バルテス・イノベーションズ株式会社に吸収合併)をFY2023 3Qより、
タビュラ株式会社をFY2024 3Qより新規連結しております。
※ 各セグメント売上の合計からセグメント間取引消去を調整するため、3セグメントの合計と連結売上高は異なります。

中期経営計画に即したAI投資等の影響によりソフトウェアテスト事業が減益



	FY2024	FY2025	FY2026
連結1Q 営業利益	▲3百万円	99百万円	▲7百万円

※ 株式会社シンフォーをFY2023 1Qより、フェアネスコンサルティング株式会社(現バルテス・イノベーションズ株式会社に吸収合併)をFY2023 3Qより、
タビュラ株式会社をFY2024 3Qより新規連結しております。
※ 各セグメント営業利益の合計からセグメント間取引消去を調整するため、3セグメントの合計と連結営業利益は異なります。
※ FY2024 3Q以降及びFY2025 1Qの数値は、企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更しているため、FY2025 1Qまでに開示した数値と異なります。

	FY2025 1 Q		FY2026 1 Q			
	実績 (百万円)	売上高比 (%)	実績 (百万円)	売上高比 (%)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	2,748	100.0	3,008	100.0	+259	+9.4
売上原価	1,969	71.6	2,196	73.0	+227	+11.5
労務費	1,231	44.8	1,318	43.8	+86	+7.0
外注費	624	22.7	739	24.6	+115	+18.6
その他	113	4.1	138	4.6	+24	+21.8
販管費	680	24.7	818	27.2	+138	+20.3
人件費	259	9.4	287	9.5	+27	+10.8
採用費	85	3.1	101	3.4	+16	+18.8
研究開発費	22	0.8	62	2.1	+40	+179.5
その他	313	11.4	367	12.2	+54	+17.3

バランスシートの状況

資産の部	FY2025	FY2026	
	(百万円)	(百万円)	対前期末 (百万円)
現金及び預金	2,356	2,321	▲35
受取手形、売掛金 及び契約資産	1,618	1,463	▲154
流動資産合計	4,323	4,048	▲275
有形固定資産	357	349	▲8
のれん	1,166	1,121	▲45
ソフト+ソフト仮	201	201	0
無形固定資産	1,367	1,322	▲44
投資その他の資産	676	574	▲101
固定資産合計	2,401	2,246	▲154
資産合計	6,725	6,294	▲430

負債の部	FY2025	FY2026	
	(百万円)	(百万円)	対前期末 (百万円)
買掛金	316	270	▲46
短期有利子負債	486	384	▲101
未払金	624	711	+86
流動負債合計	2,065	1,882	▲182
長期有利子負債	1,029	975	▲54
固定負債合計	1,032	975	▲56
負債合計	3,097	2,858	▲238
純資産の部			
株主資本合計	3,623	3,439	▲184
純資産合計	3,627	3,436	▲191
負債純資産合計	6,725	6,294	▲430

産学連携を通じてデータサイエンス・AI活用の推進と高度専門人材の育成を目指します

当社は、**データサイエンス・AI分野を牽引する滋賀大学と連携協定を締結**しました。両者の知見や人的資源を活用し、データサイエンス・AIによる課題解決と高度専門人材の育成を推進します。さらに、**調査研究センター設置も視野に、産業の発展と新たな価値創出**を目指します。



連携協定の4つの研究テーマ

確認ポイントの見極めAI



確認ポイントを増やすAIではなく**必要な確認ポイントを見極めるAI**へ

AIエージェント業務組込み



AIを単なるツール導入で終わらせず**仕事の中で動く仕組みへ再設計**する

生成AI活用環境の整備

（ローカルLLMを含む）



外部のAIサービス任せにせず、**制御できる生成AI基盤へ再設計**する

AI機能の品質基準



AI機能を従来テストの延長ではなく**AI時代に合った品質基準へ進化**させる



国立大学法人 滋賀大学

滋賀大学は、1949年創立の国立大学です。彦根・大津の2キャンパスを拠点に教育・研究活動を展開しており、2017年には日本初となるデータサイエンス学部を設置しました。データサイエンスおよびAI分野の教育研究を先導し、産学官連携を通じた人材育成と社会課題の解決に取り組んでいます。

開発・品質保証・AI活用を強みに、お客様の課題解決と事業成長を支援

バルテス・ソリューションズ&AI株式会社は、システム開発・品質保証・運用の知見と先進技術を融合し、お客様の課題解決と事業成長を支援します。開発から品質保証、運用・保守までを一貫して提供するとともに、AIを活用した新たな価値創出にも取り組んでいます。



+



+



**VALTES
SOLUTIONS & AI**

システム開発

AIソリューション

研究開発

技術支援

社名の由来



**VALTES
SOLUTIONS & AI**

「Solutions」には、お客様の課題解決に伴走するという想いを、「AI」には、最前線の技術を活用し新たな価値を創出するという想いを込めています。システム開発・品質保証・運用の知見と先進技術を融合し、企業の変革と成長を支援します。

代表挨拶



私たちは、テクノロジーを活用してお客様の利益に貢献することを大切にしています。AIの導入そのものを目的とするのではなく、お客様の課題解決と成果創出につなげることを重視しています。構想やPoCで終わらせることなく、現場で継続的に活用される仕組みとして価値を提供してまいります。

バルテス・ソリューションズ&AI株式会社
代表取締役社長
西村 祐一

分析予約機能や管理機能を実装し、利用しやすさと安定性を向上

バルテスは、ドキュメント品質解析AIツール「**QuintSpect**」**正式版の提供を開始**しました。プロトタイプ版公開後、14社での利用実績とフィードバックをもとに機能改善を進め、分析予約機能や分析履歴管理機能、通知機能を追加したほか、安全性・安定性を強化しました。



■ 正式版における主な強化ポイント

プロトタイプ版利用者からのフィードバックをもとに機能改善を実施しました。



分析予約機能

- ・ 分析予約方式に対応
- ・ 進捗状況や完了予定時刻を確認可能
- ・ 分析完了時の通知に対応



管理機能の強化

- ・ 分析履歴の管理
- ・ 検索・絞り込み機能
- ・ ファイル管理機能を追加



安全性・安定性向上

- ・ システム基盤を刷新
- ・ 矛盾検知処理を改善
- ・ 大容量ドキュメントへの対応強化

今後の展望

今後は、**要件トレーサビリティを支援する新機能**の開発を予定しています。基準となるドキュメントの内容が関連ドキュメントへ適切に反映されているかを確認し、**ドキュメント間の整合性確保と上流工程における品質向上を支援**します。

開発カテゴリー「テスト自動化ツール」部門において高い評価を獲得

バルテスが提供するテスト自動化ツール「T-DASH」は、「ITreview The Best Software in Japan 2026」の「The Best Software by Category」において、開発カテゴリー「**テスト自動化ツール**」部門を受賞しました。

「The Best Software by Category」は、ユーザーレビューをもとに各カテゴリーで**最も高い評価を獲得した製品・サービスを表彰**するものです。

「T-DASH」は直感的な操作性とテスト自動化支援機能が評価され、同部門に選出されました。



「テスト自動化ツール」部門

ITreview
BestSoftware 2026
by Category



ITreview

ITreviewは、法人向けIT製品・SaaSの比較・レビュープラットフォームです。実際の利用者によるレビューや評価をもとに、企業の製品選定を支援しており、幅広いカテゴリーのIT製品・サービス情報を掲載しています。

3

業績見通し

新中期経営計画に基づき生成AIテストツール開発へ4億円以上の投資を見込む
新中期経営計画の2期目目標を通期目標として据え置く

投資対象

- 1 生成AIテストツール開発
- 2 生成AIテストツールのマーケティング強化
- 3 AI人材を含むハイクラス人材の採用強化

	FY2025 実績		FY2026 予想			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	対FY2025 増減 (百万円)	対FY2025 (%)
売上高	11,939	100.0	14,160	100.0	+2,220	+18.6
営業利益	923	7.7	970	6.9	+46	+5.0
(参考) AI投資前営業利益	1,203	10.1	1,370	9.7	+166	+13.8
EBITDA ※	1,210	10.1	1,270	9.0	+59	+4.9
経常利益	921	7.7	950	6.7	+28	+3.1
親会社株主に 帰属する四半期純利益	573	4.8	610	4.3	+36	+6.4
1株当たり 四半期純利益 (円)	28.91	—	30.76	—	—	—

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費（PPA含む）で算出
業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報や予測等に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

4

生成AIテストツール開発投資

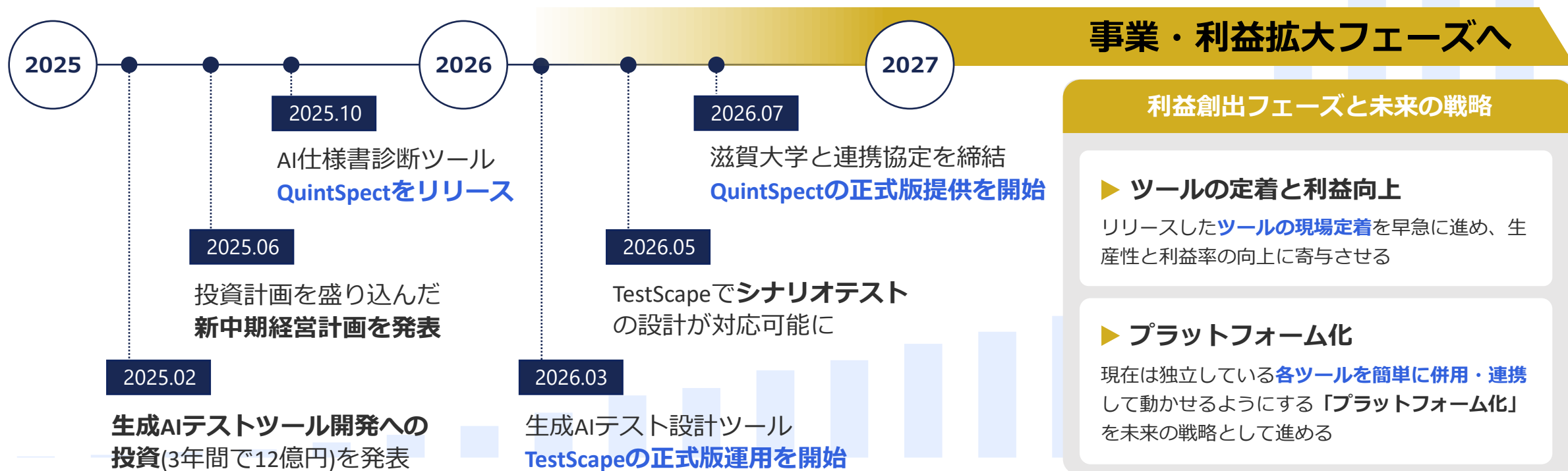
「生成AIテストツール開発投資」計画の経緯 振り返りと今後

投資の経緯

生成AIの拡大に伴う機会とリスクに対応するため、当社は「生成AIテスト設計ツール」の開発を推進
2025年には開発加速に向けた積極投資方針へ転換し、「新中期経営計画」で年4億円×3か年・計12億円の投資計画を策定

振り返り/今後

新中期経営計画初年度の2026年3月期は、投資・開発が順調に進捗し、2つのツールをローンチ。顧客案件での利用も拡大
今後は現場定着と販売強化による利益創出を進め、将来的にはプラットフォーム化による事業拡大を目指す



開発中の生成AIテストツール

ツール
01



生成AIテスト設計ツール 「TestScape（テストスケープ）」

▶これまで培ってきたテスト設計のナレッジを学習させた生成AIと、独自構築したテスト体系「QUINTEE®」を基盤とした**生成AIテスト設計ツール**（社内のみ・非外販）。

仕様書や関連ドキュメントを読み込むことで、テストの実行内容を自動生成する。併せてQUINTEE®に準拠した観点整理（テストで確認すべき項目）や条件マトリクス（条件の整理）といった中間生成物（ドキュメント）を生成し、**テスト設計の過程や根拠を可視化できる点**が他社ツールにはない強み。

ツール
02



ドキュメント解析AIツール 「QuintSpect（クインスペクト）」

▶正確性・理解性・視覚性・深層性・信頼性の5つの観点からドキュメントを分析し、**スコアリングと改善提案を自動でおこなう解析AIツール**（社内・外販予定）。

人の専門知見により実施してきたレビューに、**長年培ってきたインスペクションノウハウを基盤とするAI技術を加える**ことで、より高精度かつ効率的に品質診断を実現する。

開発進捗状況

2026年8月時点

- ▶2025年3月 β版ローンチ
社内でのテスト運用・改善実施
- ▶2026年3月25日
社内正式運用開始
- ▶2026年5月11日
シナリオテスト機能追加

- ▶2025年10月 β版ローンチ
社内でのテスト運用・改善実施
- ▶2026年1月～
申込企業にてテスト利用開始
- ▶2026年3月～
利用企業からのフィードバックより改良開発を実施中
早期正式ローンチを目指す
- ▶2026年7月～
正式版の提供開始

開発中の生成AIテストツール

その他

滋賀大学との産学連携の推進

▶ ソフトウェア品質向上のトータルサポートを提供し、高度な技術力と豊富な実績を有する当社と、データサイエンス・AI分野の教育研究を推進する滋賀大学が連携し、**データサイエンスやAIを活用した産学連携の取組を推進。**

両者の専門的知見や人的・知的資源を活用し、データに基づく課題解決や解析技術の構築、調査研究センターの設置等に取り組み、**産業の発展と新たな価値創出を目指す。**

開発進捗状況

2026年8月時点

▶ **2026年7月 連携協定を締結
データサイエンス・AI 分野で
連携強化**



成長戦略（新中期経営計画）

生成AIテストツール開発への積極投資方針を従前の中期経営計画に反映したローリングプラン

中計Vision

ソフトウェアテスト市場の社会的価値を高めるバリューアッププラットフォーマーへ

▶ 生成AIテストツール開発投資によって最大事業のソフトウェアテスト事業を「労働集約型ビジネス」から「人に依存しないビジネス化」

Visionコンセプト1.2

コンセプト① バルテス品質を業界へ波及させるビジネスモデルの構築
▶ ソフトウェアテスト業界の社会的価値向上で更なる市場拡大を誘引

コンセプト② 生成AIテストツール開発への積極投資によって
▲コンセプト更新 人に依存しないビジネスモデルの強化・拡大
▶ 人に依存しない事業比率向上でグループの生産性を向上

コンセプトに基づく5つの基本戦略

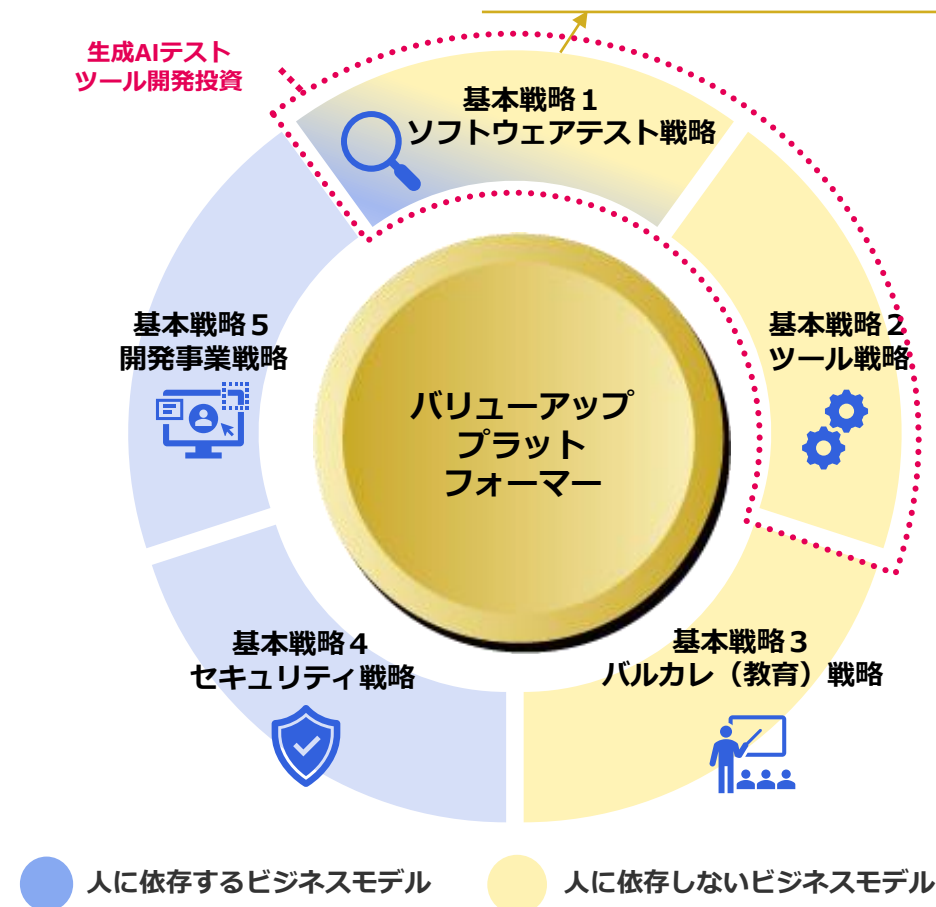
基本戦略1：ソフトウェアテスト戦略 ◀ 生成AIテストツール投資で戦略更新

基本戦略2：ツール戦略 ◀ 生成AIテストツール投資で戦略更新

基本戦略3：バルカレ（教育）戦略

基本戦略4：セキュリティ戦略

基本戦略5：開発事業戦略



新中期経営計画 戦略のグランドデザイン 数値目標

▶ 新中期経営計画で内容を更新

新中期経営計画（3か年）

■ 生成AIテストツール投資（3か年）

生成AIテストツール開発投資
各年4億円を目安

3か年計 **12** 億円

■ BS戦略投資（3か年）

主にM&A投資
事業所投資

3か年計 **25** 億円

■ 還元施策

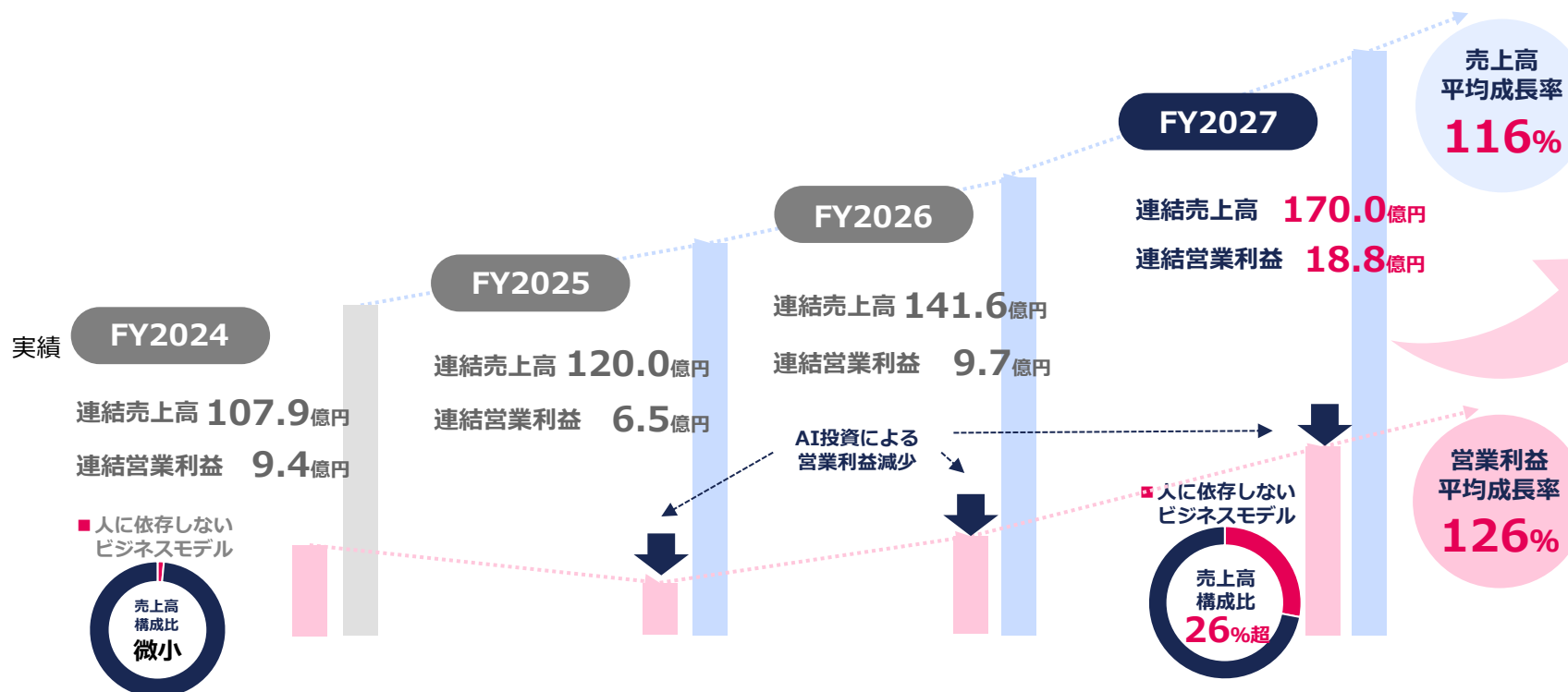
投資優先で成長によるキャピタルゲインで還元

■ 配当

3か年計 **2.4** 億円

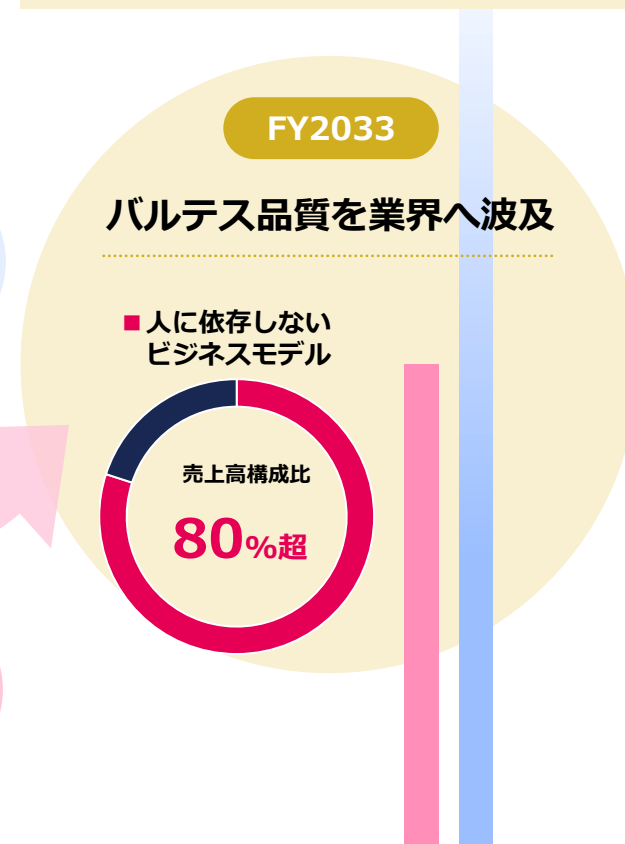
■ AI開発応援・株主優待

3か年計 **2.4** 億円



10年先のVISION

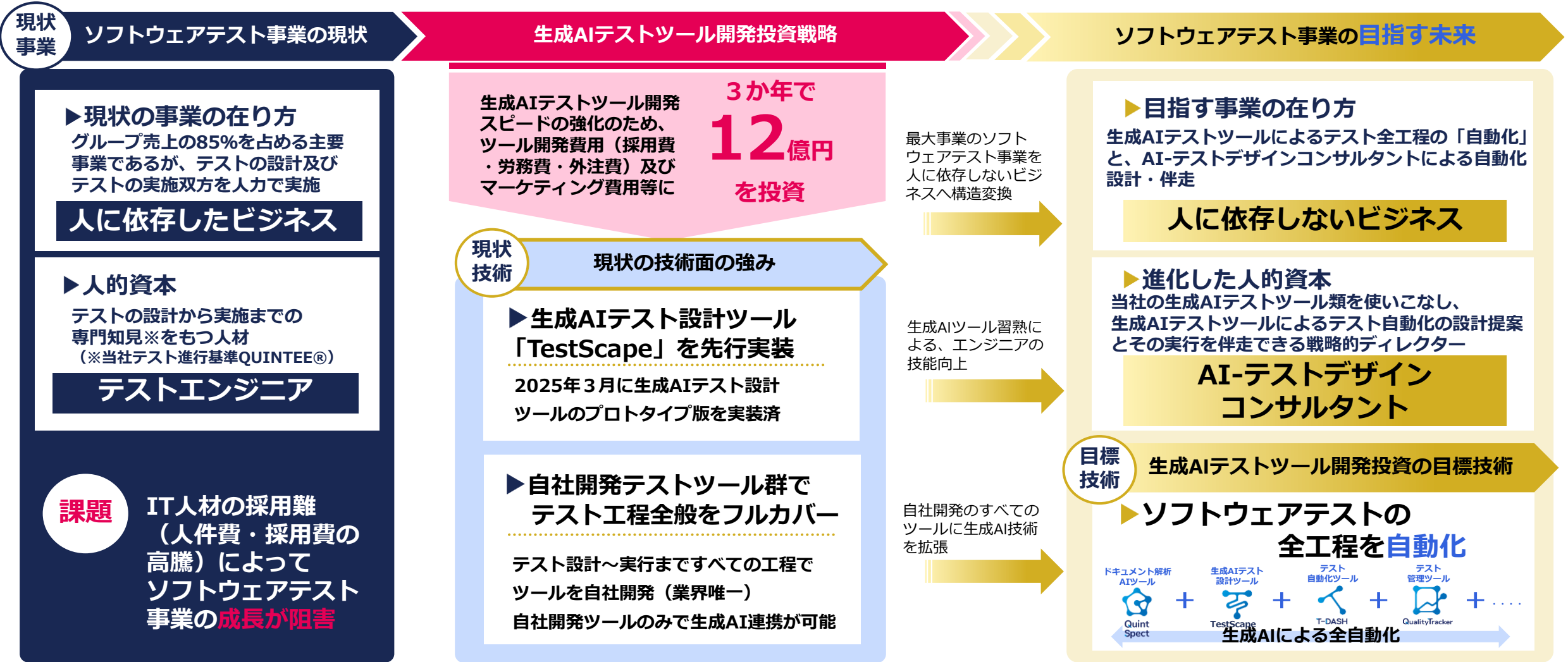
バリューアッププラットフォーム



※ FY2025以降の実績値につきましては、各期の通期決算説明資料をご確認ください

重点施策「生成AIテストツール開発投資戦略」の骨子

▶ 新中期経営計画で新設

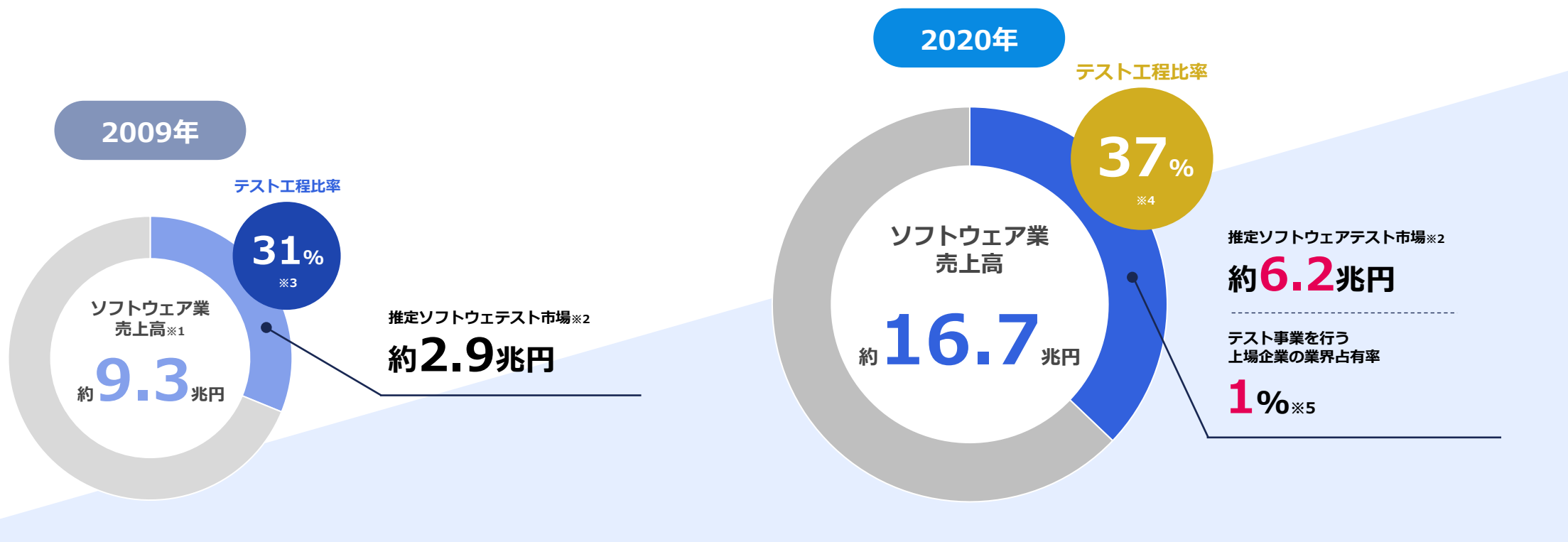


6

ソフトウェアテスト事業環境

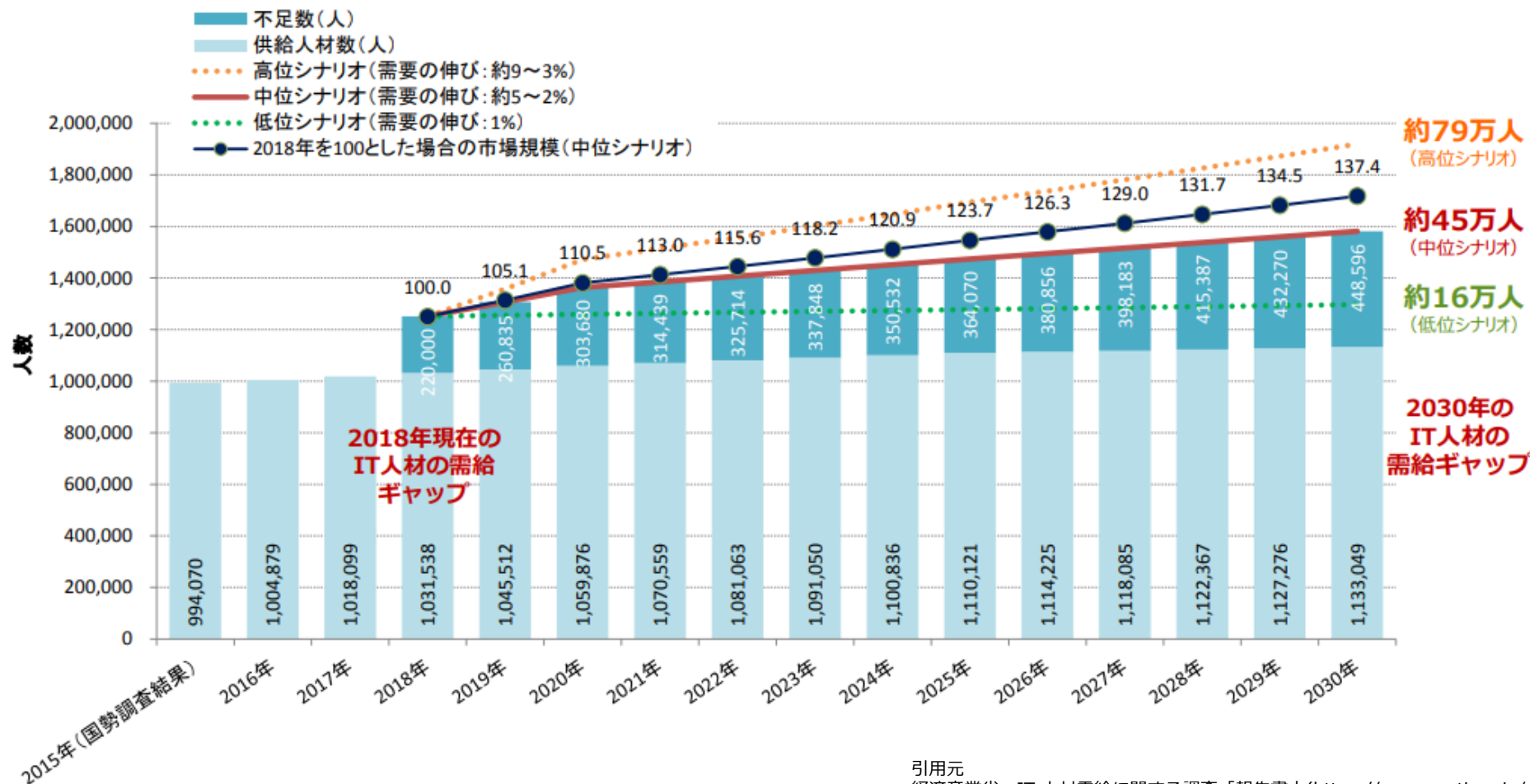
当社が推定する日本のソフトウェアテストの市場規模は約6.2兆円

■ ソフトウェア業売上高に占めるテスト工程比率の推移と市場規模推計



※1 総務省・経済産業省「情報通信業基本調査」より ※2 ソフトウェア業売上高に、テスト工程比率を乗じて算出 ※3 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発データ白書」より
※4 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発分析データ集2020」より ※5 テスト・デバック事業をメインとする上場企業の売上合計より

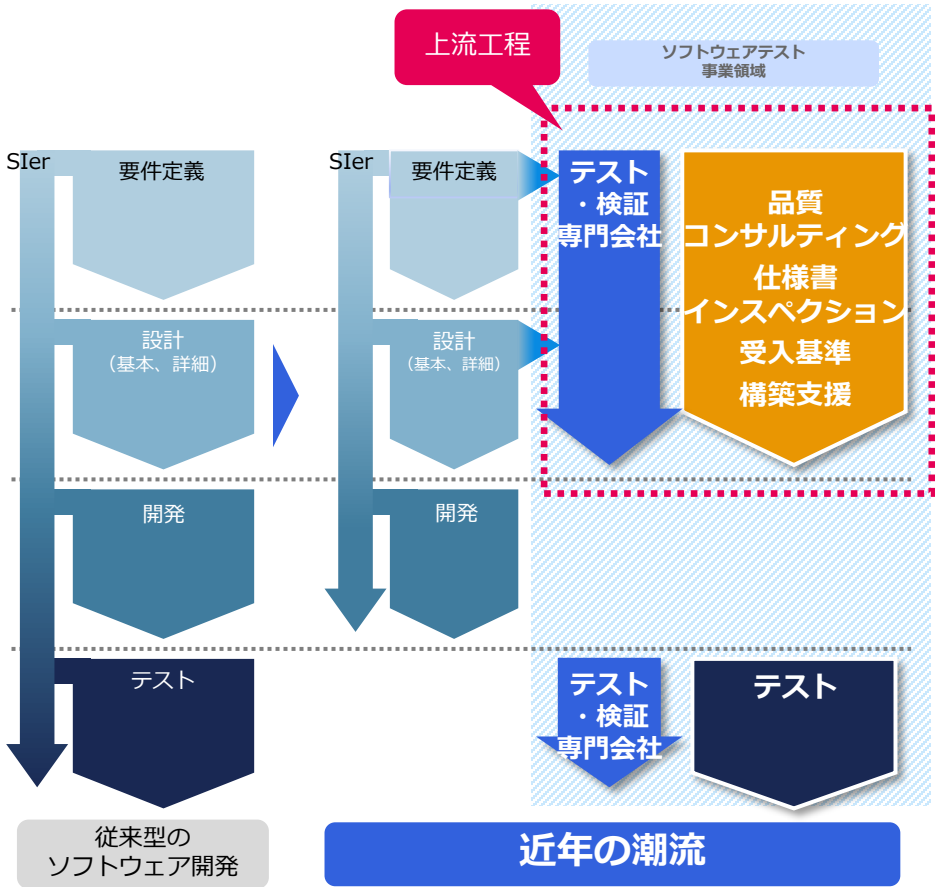
ソフトウェアテスト市場規模拡大の一方、担い手のIT人材は不足



引用元
 経済産業省 IT 人材需給に関する調査「報告書本」(https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf)
 図 3-11 IT 人材需給に関する主な試算結果①②③の対比 (生産性上昇率 0.7% IT 需要の伸び「低位」「中位」「高位」)

ソフトウェアテストは開発企業から**テスト専門会社**へ
品質向上を目指すユーザー企業など**上流工程**からの依頼も増加

	開発企業によるテスト	テスト専門会社によるテスト
品質	- テストは開発エンジニアのモチベーションが上がらず非効率 - 開発エンジニア自身のテストは客観性が無く信頼性に欠ける	- 再現性・共有性の高いテスト方法やメソッドを確立 網羅的で高効率なテストが可能 - 上流工程からの参画により、ソフトウェア自体の品質が向上
コスト	コスト高な開発エンジニアの労働時間の約40%がテスト工程	- 開発エンジニアのテスト実施と比べ60%~70%程度※で対応可 ※当社調べ - 上流工程からの参画により、手戻りコストを削減
構造	大手SIerが一括受注し、下請けに開発を発注、その開発エンジニアがテストも実施	- 第三者のテスト専門会社によるテストの有効性が注目 ユーザー企業など上流工程からの依頼も増加





自社の強み

自社の強み① 高スキル テスト専門エンジニアが多数在籍 高難易度なエンタープライズ領域へのナレッジ蓄積



人的・技術的優位性

- ソフトウェアテストに関する専門教育を受けた正社員500名超
- JSTQB※1高保有率
- ISTQB※2 Global Partner 日本初認定
- 年間約7,000※3プロジェクト、1,300社以上の導入実績
- プロジェクトを通じた様々な業界におけるナレッジの蓄積
- 専門技術人材を供給可能な外部協力会社ネットワーク
- ISO/IEC/IEEE 29119※4準拠テンプレート
- QUINTEE®※5（テストの進行基準）

※1 JSTQB(Japan Software Testing Qualifications Board)とは、国内のソフトウェアテスト技術者認定組織のこと
※2 ISTQB(International Software Testing Qualifications Board)とは、世界130カ国のテスト技術者認定組織のこと
※3 ツール案件を含む
※4 ISO/IEC/IEEE 29119とは、ソフトウェアテストの統合的な国際規格のこと。ISO、IEC、IEEEという3つの標準化団体が合同で策定しているため、この名称で呼ばれる
※5 QUINTEE®とは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

エンタープライズ領域へのナレッジ蓄積

- 潜在市場が大きい、高度な技術を要するエンタープライズ領域拡大のため専門部署を設置
- エンタープライズ領域における専門ナレッジの蓄積

エンタープライズ領域の特長

- 単価：高 案件規模：大 契約期間：長
- 開発、業務知識等、テスト以外の知識を求められる
→ 難易度：高 参入障壁：高
- マイグレーション等※6の増加で市場：拡大 潜在市場：巨大

	当社の事業領域	潜在市場規模	市場ステージ	参入障壁
テスト 工程 市場	エンタープライズ	巨大	黎明期	高
	組込み	大	黎明期	高
	Web・スマホ	中	成長期	中
	エンターテインメント	小	成熟期	低

※6 ソフトウェアやハードウェア、システム、データ、開発言語などを別のプラットフォームに移行したり、新しいシステムに切り替えたりすること

専門性の向上によって強固な参入障壁を構築し、価格競争を回避

自社の強み② バルゼミを始めとした人材育成コンテンツ 人材早期育成メソッドの充実

バルゼミを始めとした育成コンテンツ・メソッドの充実で**早期人材育成が可能**



自社の強み③ 要件定義、基本設計等の上流工程から
ソフトウェア品質向上支援サービスを提供可能

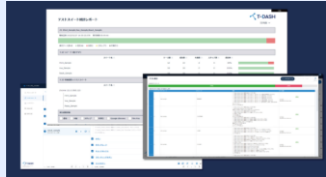
ソフトウェア開発の全工程で、ソフトウェア品質向上支援サービスを提供



自社の強み④ ソフトウェアテストサービスの実績に基づいた テスト・品質向上支援ツールを自社開発

ソフトウェアテストを効率化し、**高品質とリリースのスピードアップ**を実現

■ テスト自動化ツール



日本語で作成したテストケースで
自動テストを実現したテスト自動化ツール

■ テスト管理ツール



テスト実施に特化した管理ツールEVMによる管理で、
品質向上の見える化を可能に

■ AIテスト設計ツール



当社独自のAIが仕様書からテストケースを自動生成。
テスト設計書などの中間生成物も自動的に作成

■ ドキュメント解析AIツール



要件定義書などのドキュメントを当社独自のインスペク
ション観点で分析。AIが問題点や改善点をレポート

Coming soon . . .



テスト設計から実施までの全工程に生成AIを実装。
各ツールの連携により、**ソフトウェアテスト全工程の
自動化を目指す**

顧客・業界に
**品質向上及び
開発短期化メリット
を提供**



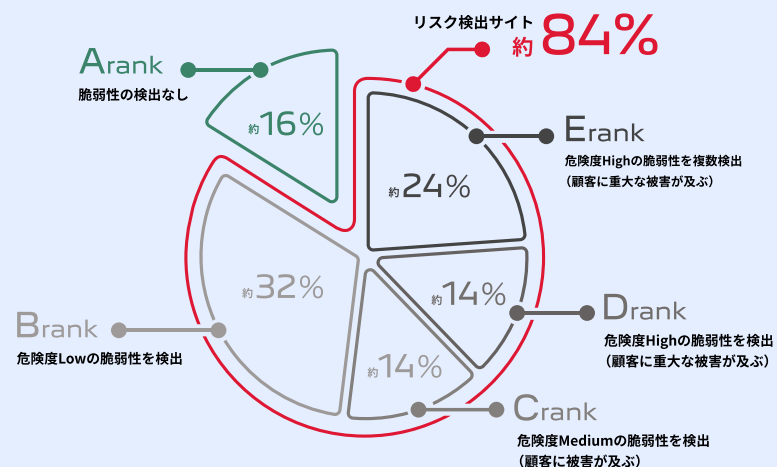
テスト・品質向上支援ツールの詳細については、当社ホームページ サービスサイトをご覧ください。

<https://service.valtes.co.jp/s-test/tool/>

自社の強み⑥ サイバーセキュリティサービスの拡充

脆弱性診断を始めとしたセキュリティサービスの拡充

脆弱性診断



※2020年1月～2020年12月までに当社がセキュリティ診断を実施したサイトの一部から抜粋

診断結果の約84%のサイトで危険なリスクが検出されています！
2,000件以上の実績により、
ツールでは見つからない脆弱性※も多数検出

※ なりすましが出来てしまうアクセス制限に関する脆弱性

セキュリティサービス



ペネトレーションテスト（侵入テスト）サービス

セキュリティ対策の専門家が、実際に攻撃者と同じ視点・手法でシステムに侵入を試み、リスクや脆弱性を評価



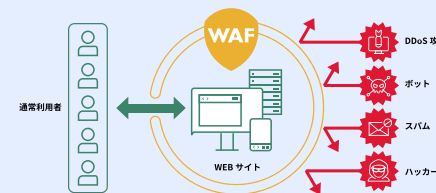
クラウド診断サービス

クラウドプラットフォームやシステムの利用状況におけるセキュリティ上の問題を診断



セキュアプログラミングのソフトウェア品質セミナー

安全なWebサイト構築のためのセミナーを実施



WAF PrimeWAF

Webアプリケーションの脆弱性を悪用した攻撃からサイトを保護するセキュリティ対策サービス。セキュリティ診断・脆弱性診断に実績があるバルテスが提供する新たなクラウド型WAFサービスPrimeWAFを展開。

当社が主力とする
品質向上サービス
と併せて
セキュリティに関
するトータルな提
案が可能



セキュリティサービスの詳細については、当社ホームページ サービスサイトをご覧ください。 <https://security.valtes.co.jp/>

自社の強み⑥ 生成AIテスト設計ツール「TestScape」

ソフトウェアテスト専門事業者としての豊富な実績を活かした生成AIテスト設計ツール「TestScape」

蓄積された実績とテスト基準

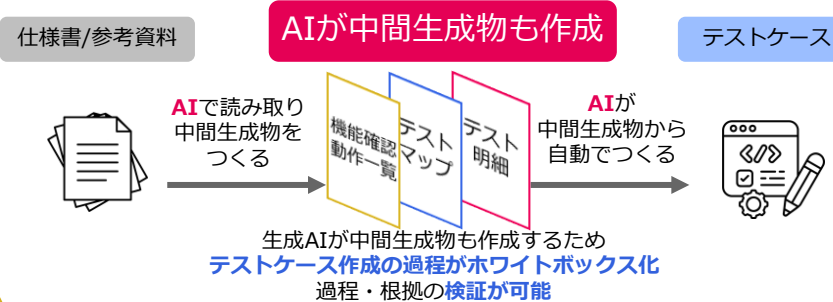
- 直近年間約7,000※1プロジェクト、1,300社以上の導入実績
- ソフトウェアテスト専門事業者として20年を超える業歴・膨大なテスト実績
- プロジェクトを通じた様々な業界におけるナレッジの蓄積
- ISO/IEC/IEEE 29119※2準拠テンプレート
- 当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したテスト進行基準「QUINTEE®※3」

※1 ツール案件を含む
※2 ISO/IEC/IEEE 29119とは、ソフトウェアテストの統合的な国際規格のこと。ISO、IEC、IEEEという3つの標準化団体が合同で策定しているため、この名称で呼ばれる
※3 QUINTEE®とは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

当年3月
生成AIテスト
設計ツール
「TestScape」
の社内正式運用
開始

中間生成物の作成で生成AIの透明性確保

バルテストの生成AI 過程や根拠が説明できる！



他の生成AI 過程や根拠が不明



高精度・透明性の
高い生成AIテスト
ツールの開発で
競争優位

ツールの利用で
生産性向上

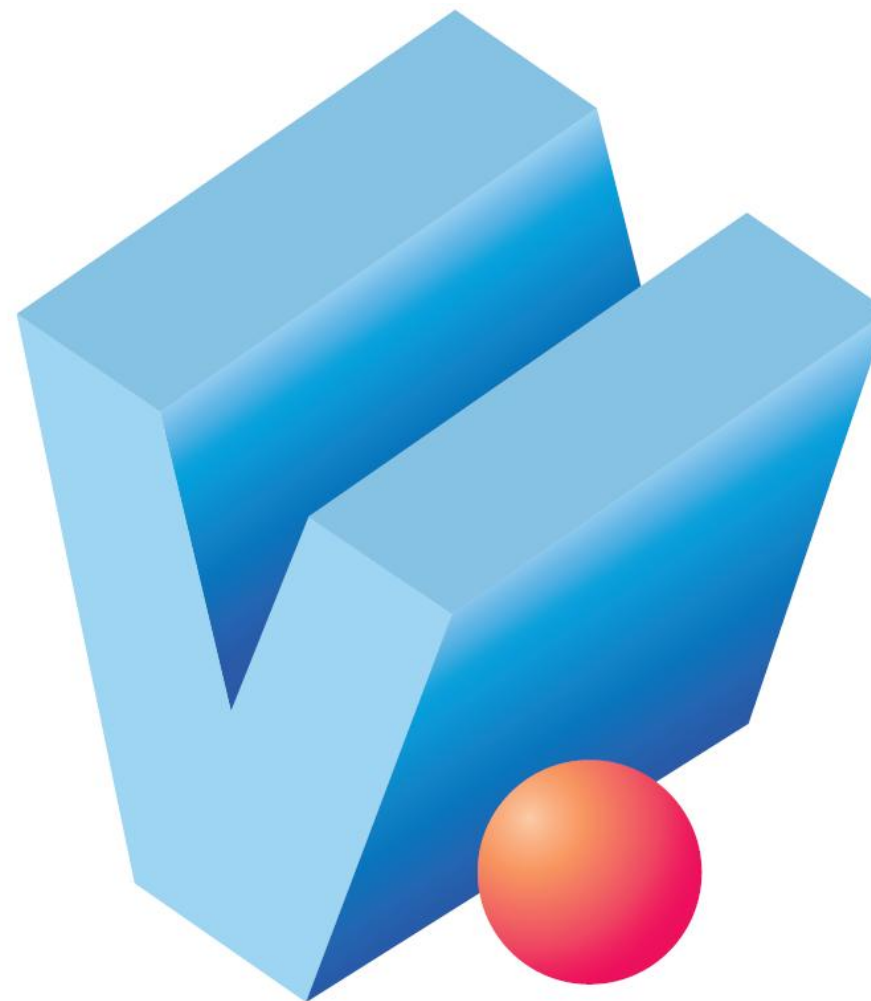
8

会社概要

FOR QUALITY CONFIDENCE

品質向上のトータルサポート企業

バルテスグループは、品質向上のトータルサポート企業として、
ソフトウェアテストをはじめ、さまざまなサービスを提供しています。
世の中のあらゆるものに組み込まれるソフトウェアの品質を守り、
向上させることで、安心・安全な世界の実現に貢献します。



「品質向上のトータルサポート企業」経営方針に掲げ、事業を展開

会社名	バルテス・ホールディングス株式会社
会社設立	2004年 4 月 ※2023年10月持株会社体制移行により社名変更
上場	2019年 5 月 東証マザーズ (現 東証グロース 証券コード：4442)
本社住所	大阪市西区阿波座 1 - 3 - 15 (大阪本社)
事業内容	ソフトウェアテストサービス 品質コンサルティングサービス ソフトウェア品質教育サービス セキュリティ・脆弱性診断サービス
グループ会社	バルテス株式会社 バルテス・イノベーションズ株式会社 VALTES Advanced Technology, Inc. (Philippines) バルテス・ソリューションズ&AI 株式会社 株式会社アール・エス・アール タビュラ株式会社
従業員数	999名 (2026年 6 月末時点 グループ 7 社計)
内、総エンジニア数	852名 (2026年 6 月末時点 グループ 7 社計)
総資産	6,294百万円 (2026年 6 月末時点 グループ 7 社連結)

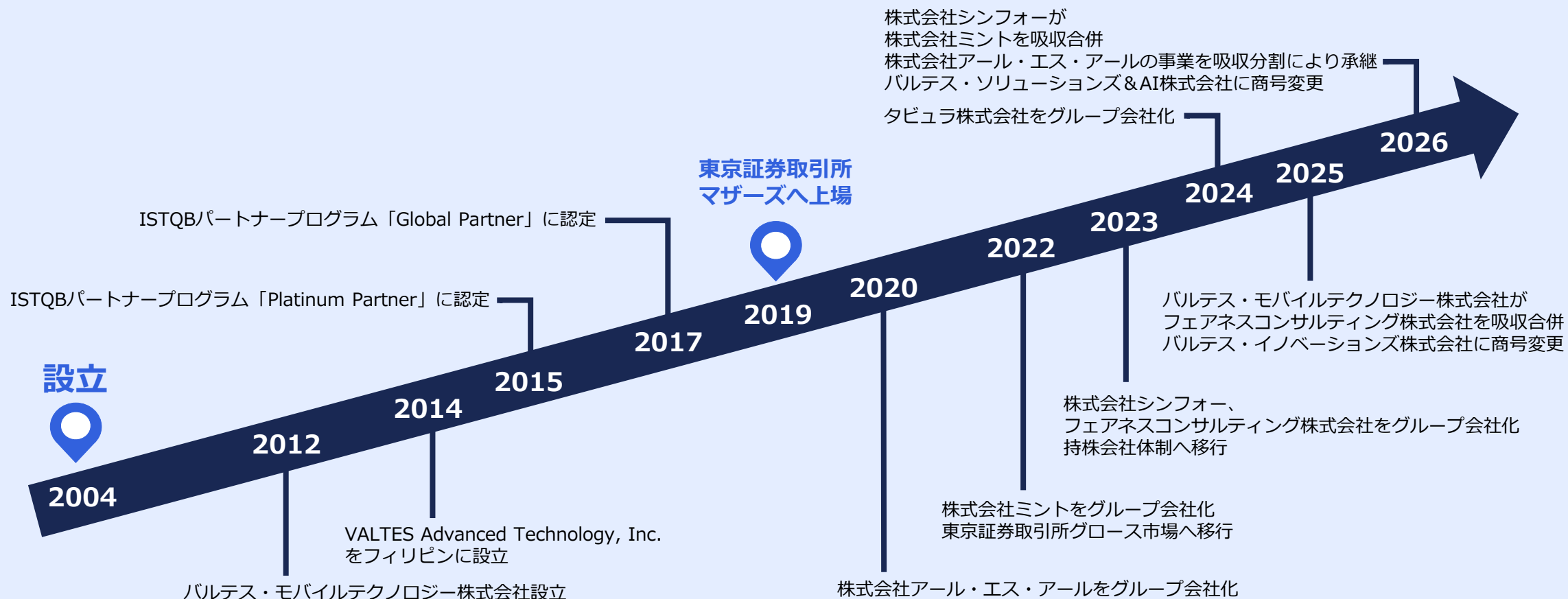


代表取締役会長兼社長

田中 真史
Tanaka Shinji

2004年4月、設立。ソフトウェア品質に関わるサービスを提供。

ソフトウェアテスト専門会社として、年間7,000件※以上のプロジェクト実績



※ ツール案件を含む

持株会社（当社）



グループ経営管理機能

事業グループ会社



事業推進・執行機能

サステナビリティ委員会の設置

サステナビリティに係る取組みや、環境・人権方針の策定、
当社グループへの浸透と進捗状況のモニタリングを実施



社外取締役の積極登用

高度な専門性を持つ社外取締役の登用で、
当社グループの成長加速とガバナンスの強化へ



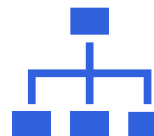
**取締役7名中、
過半数の5名が社外取締役**

監査等委員会設置会社への移行



取締役の職務執行の監査等を担う監査等委員を
取締役会の構成員とし、取締役会の監督機能を強化

持株会社体制への移行 執行役員制度の導入



持株会社及び各事業会社の権限と責任を
明確化及び管理機能の集中化、
迅速な意思決定と適切なモニタリングの両立と、
経営重要事項の決定・監督を担う取締役会と執行責任を負う
執行役員との役割分担明確化及び機能強化を目指す

Create Wellness

人と社会に品質を

当社グループでは、「人と社会に品質を」を合言葉に、豊かな知見から生まれた教育プログラムと安心・安全を支えるサービスの提供を軸としたサステナビリティ活動を推進しています。

次の時代を担う人材（Employee）を育成することで、環境（Environment）と社会（Society）への取り組みを加速し、コーポレート・ガバナンス（Governance）体制を強化していく「E+ESG経営」を実践しています。



取り組みの詳細については、当社ホームページ サステナビリティサイトをご覧ください。

<https://www.valtes-hd.co.jp/sustainability/>

バルテスグループ×SDGs



ご留意事項

本資料には、当社グループの現在の計画や業績見通しなどが含まれております。

これらの将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予想したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素により、
この計画・予想などとは異なる場合があります、
この資料は その実現を確約したり、保証するものではありません。
なお、この資料への公認会計士、監査法人の関与はございません。

